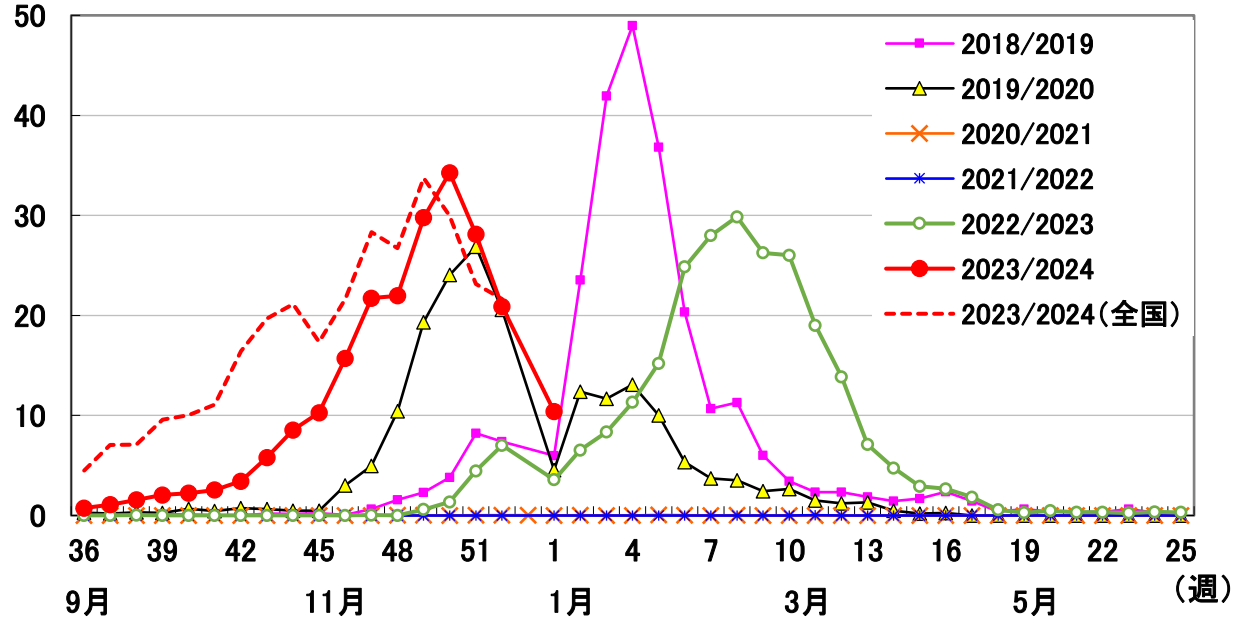


インフルエンザの発生状況(富山県)

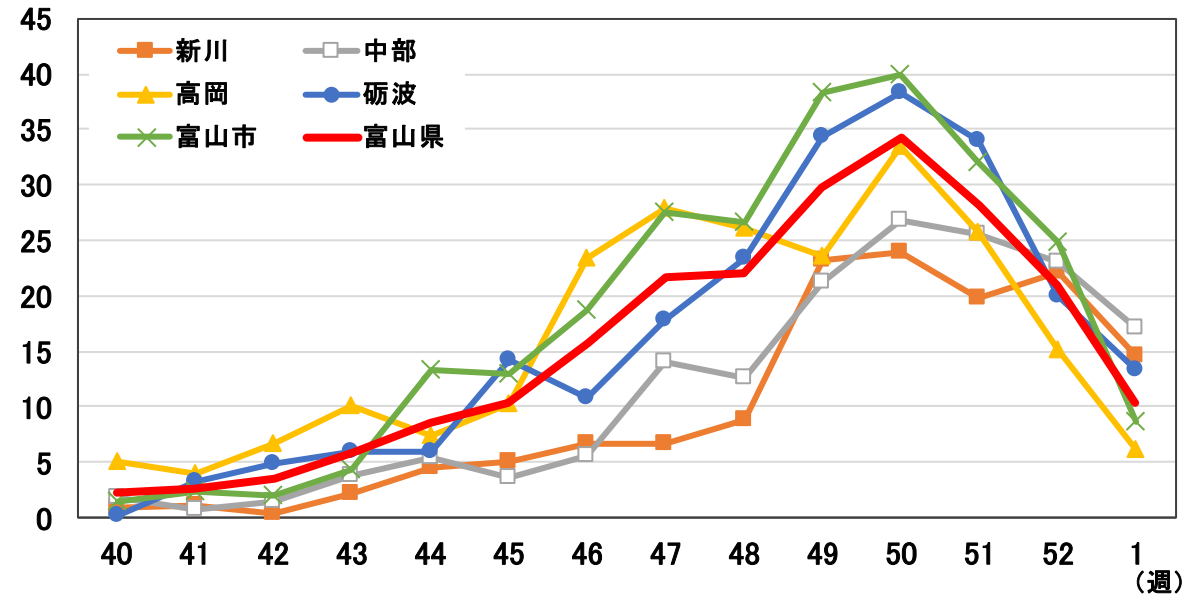
【第1週(2024/1/1~1/7) 感染症発生動向調査速報値 (2024/1/10時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第1週) **10.38**人/定点となり、先週(20.9人/定点)から減少した。なお、年始の定点医療機関の休診により、流行状況を過小評価している可能性がある。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、すべての管内で先週より減少した。

図3. 年代別割合(富山県、第1週)

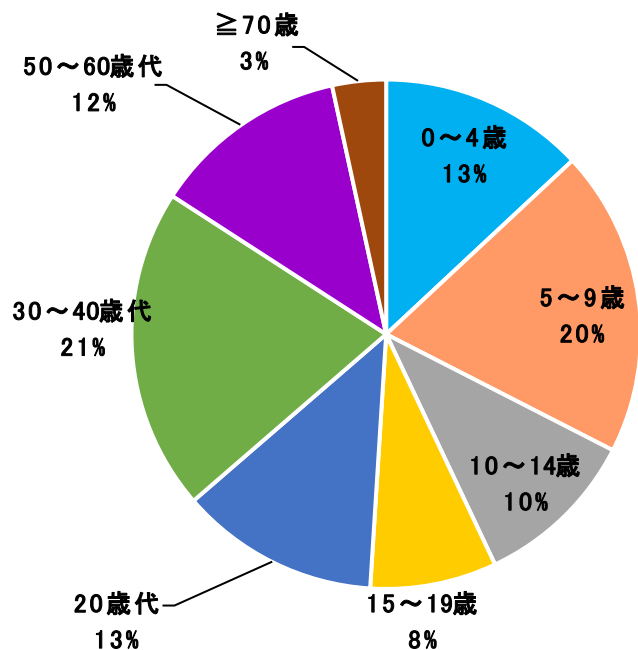
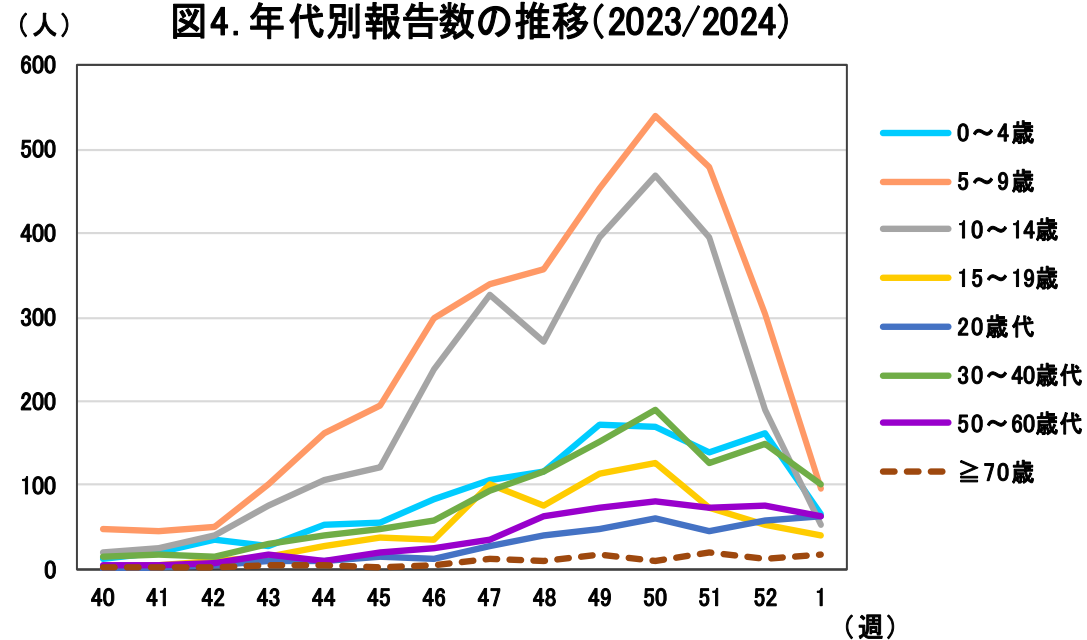


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第1週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が43%を占めた。
- 年代別報告数の推移（図4）では、15歳未満の報告数が大きく減少し、その他の年代では横ばいであった。
- 第1週はインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告がなく、冬休みの影響と考えられた。

富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第52週)

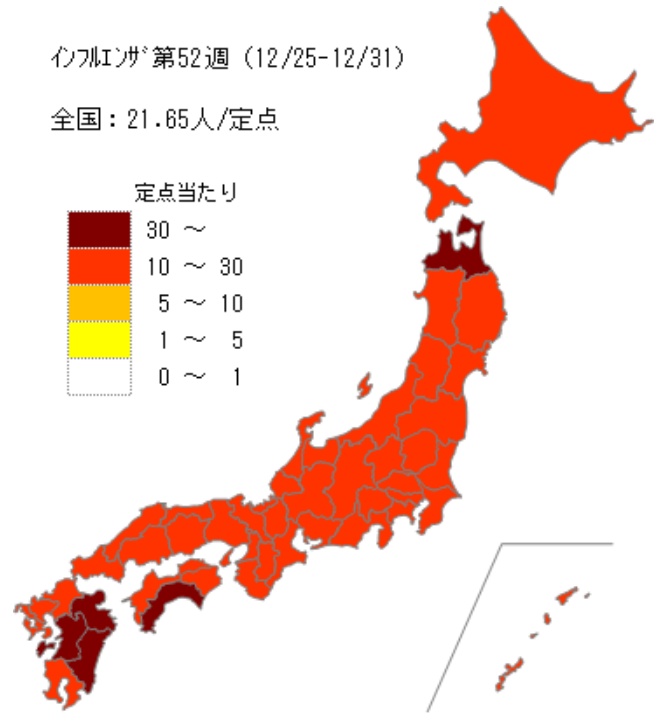
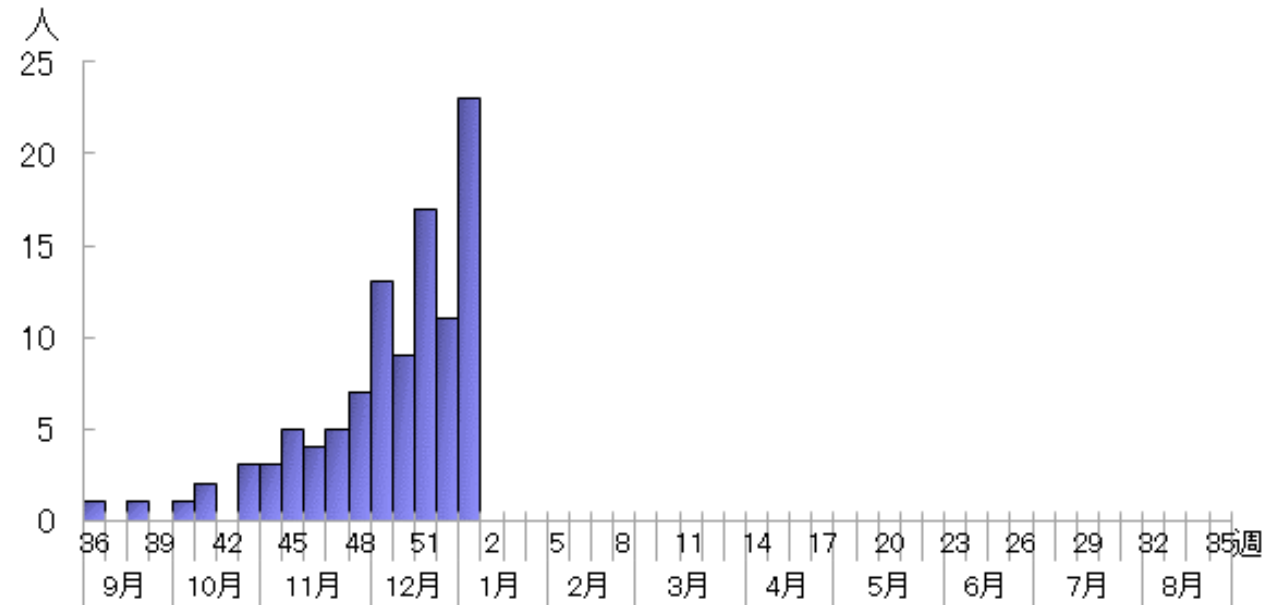


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第1週)



- 全国では第52週に21.65人/定点となり、第51週（23.13）から減少した。都道府県別（図5）では、全都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。また、その内5県で警報レベルの目安である30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第1週に23例の報告（10歳未満：3例、50歳代：1例、60歳代：2例、70歳代：4例、80歳以上：13例）があった。
- 患者報告数は先週から減少したものの、年始の定点医療機関の休診により、流行状況を過小評価している可能性がある。今後、学校や会社等が再開されることから、患者数の再増加が懸念される。引き続き今後の発生動向を注視する必要がある。